

## ◆ 基礎情報

計画名	建築・デザイン学部 デザインコース プロダクト分野作品展示
実施責任者	建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 デザインコース 福田一郎
対象者	建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 デザインコース プロダクト分野 3年生17名 2年生18名
実施期間	2025年4月～2026年3月

## ◆ 取組み概要

全体の概要（この取組みを始めた背景や目的を簡潔に記述）

建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 デザインコース プロダクト分野の演習やゼミナールで制作した様々な作品を、学生が主体となって学外のギャラリーにて展示を行う取組み。

学生が主体となり展示計画からイベントポスター、イベントDM制作、会場で投影する動画制作、オープニングパーティ計画などを行い、学外のギャラリーを借りて作品展示を行う。一連の作業をプロダクト分野学生が共同で取り組むことで体験の中からリーダーシップを学ぶことが大きな目的である。

また、プロダクト分野の3年生石田ゼミナールと福田ゼミナールの学生が中心となり、プロダクト分野2年生も合同で活動することで、学年を越えた関係性の中でのリーダーシップの成長も期待する。学外展示が毎年恒例となることで、複数年に渡って学年の縦のつながりの醸成に寄与することも目的である。

24年度は石田先生を中心としたリーダーシップGPの活動として取り組んだが、25年度は福田が主担当となり、同様の活動を行った。

## ◆ 取組み全体の流れ

時系列・段階など

- 4月～
  - ・石田ゼミ、福田ゼミの3年生に対し学外展示を行うアナウンスを行う。
  - ・共立リーダーシップの説明と、リーダーシップ行動確認シートを記入し各自のリーダーシップ目標を設定する。
  - ・ゼミ生の中から中心となる学外展係を選出し、骨格となる計画を立てる。
- 4～7月
  - ・演習授業での制作途中のスナップなどを撮影し、会場で流す動画制作の素材を集める。
  - ・展示台などの制作や作品コンセプトを表現したキャプション作成を行うことを伝え、どのようなデザインにするか等検討。
  - ・展示会ヴィジュアル（ポスター、DM）デザイン制作。
  - ・会場で流す動画制作。
  - ・7月4日（金）14時～中間相談会参加（参加者：福田、石田先生、稲田助手、滝本助手）
- 8月
  - ・表参道TIERS galleryにて展示＆オープニングパーティー（設営、準備含む）
  - ・展示期間中にグループごと在廊し、お越しいただいた方々への展示説明。
  - ※会場：表参道TIERS gallery
  - 2025年8月1日搬入、オープニングパーティー
  - 展示期間：8月2日土曜日～9日金曜日14時まで8日間開催予定 8月9日14時～搬出
- 9月～
  - ・共立リーダーシップ自己評価シートを記入し、各自の発揮できたリーダーシップを振り返り。
  - ・ゼミ内でもリーダーシップや協働した内容について振り返る。

## ◆ 取組みの成果

・プロダクトデザイン学外展2025開催のお知らせ（ケンデバ）

<https://kendesign.kyoritsu-wu.jp/?p=16345>

・プロダクト学外展2025はじまりました！（ケンデバ）

<https://kendesign.kyoritsu-wu.jp/?p=16621>

## ◆ リーダーシップ教育に関する実践

共立リーダーシップの意識づけ、目標設定の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロダクト分野の3年生、2年生それぞれに対して、共立リーダーシップについての概要の説明を行った。特に3年生に対しては今回のプロダクト分野の学外作品展示を行うにあたって、「リーダーシップ行動確認シート」「チームの方針やルール」といった教材を使用して学生個人とチーム活動でのリーダーシップの意識づけと目標の設定・共有を行った。</li> </ul>
協働活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展示会に必要なものや制作物のデザインについて役割分担をしながら学生同士で考え、話し合い活動を進めていった。展示会テーマ・タイトルを「Point」とし、メインビジュアルのデザインやそれを使用したポスターやDM/ハガキの制作、展示会場の展示台構成や、大学での活動をまとめた動画など、学生が協力して制作をすることができた。</li> <li>・役割それぞれに対して途中で教員がヒアリングしながら、チームの状態を確認し、活動を進めていった。</li> </ul>
共立リーダーシップの観点での振り返り	<p>展示とオープニングパーティが終わった後に、プロダクト分野3年生がゼミごとに対面で話し合いながら、自分たちのリーダーシップ行動について振り返りを行なった。振り返りの中では「相互支援」「率先垂範」についての話が多く、また「包容性」を感じさせるコミュニケーションの取りやすい行動ができていることがわかった。</p>

## ◆ 学生の成長に関する総括

・今回のプロダクト分野作品展示についての活動をする上で、共立リーダーシップの説明と、リーダーシップ行動確認シートを使い目標の共有をしたことで、学生各自が意識的にリーダーシップ行動を取れていたと感じる。特に3年生は、2年生に教える・伝えるという成果目標に対して、どのようにコミュニケーションを取れば良いかを思考しながら積極的に会話をする場面が散見された。また、オープニングパーティでは2年生が自ら3年生に話しかけ、ゼミナールについて質問をするなど良好なコミュニケーションが取られている姿を見ることができた。共立リーダーシップの「相互支援」「率先垂範」「包容性」が発揮されていると感じた。

## ◆ 取組みを通した全体の所感

建築・デザイン学科 デザインコース プロダクト分野の学外作品展示も回を重ねるたびに、学生それぞれが自分たちのやりたいことと、そのために必要な計画から準備、設営、オープニングパーティなどについて主体的に取り組んでいるように感じる。今回の学外展示活動についても大きな問題もなく安全に滞りなく進めることができた。昨年度は学年を超えた3年生、2年生の縦のつながりは少なかったが、今回は目標共有で共立リーダーシップについてのレクチャーを時間をかけて行った結果、会場設営やオープニングパーティでは縦のつながりが少しずつ醸成されている様子を確認することができた。デザインコースの日々の演習クラスとは違う単位での活動の中で、良好なコミュニケーションが育まれていくことは、これから社会に出て様々な人たちと活動をしていく上で、学生自身の自信や安心につながることを感じる。

## ◆ 今後の展開

昨今の会場費を含めた経費の高騰傾向にある中で、今回共立リーダーシップGP制度を活用することで準備を含め、今までと同様に活動を継続することができた。このような活動は単年度で終わりにせず、継続することで共立リーダーシップについての意識も含めて少しずつ向上していくと考える。活動内容は建築・デザイン学科のWebサイト「ケンデ」や各ゼミのInstagram、またオープンキャンパスを含め、学内外にも発信していきたい。共立リーダーシップGP制度に感謝申し上げるとともに、引き続き来年度以降も同様の活動を行っていきたいと考える。